

安心と希望の介護ビジョン提言

平成20年10月1日

帯広けいせい苑
村上勝彦

老後の安心は自分の主張から

- * 高齢者の生活、住み方、生き方は各自の主張、選択がある。それを支えるのが介護保険制度である
- * そのステージごとの支えがあって「安心」と「希望」ある老後が享受される
- * 支えには家族、地域住民、関連職種・機関の連携が重要であるが、介護負担が一所に集中する事のない制度設計が必要
- * 家族介護負担は14万8千人の離職者を生み出している

介護人材の安定的確保を

*** 介護従事者の安定的供給は介護保険制度の持続性を決定する大きな要素**

*** 今後、働き手が減少していく中で介護従事者の有効的活用や介護の質を考慮した上で人材の費用対効果の観点からサービス体系を検討する事が急務である**

*** 重度者対応は従来から準看がその責務を負ってきたが今後とも準看の制度的位置づけを明確化することが重要である**

多様な住まいと特養の位置づけ

- ＊高齡者の早めの住み替えは、介護者の介護力・家族力、高齡者の身体状況、生活財力、そして地域力等の相関で、各自異なる
- ＊特養の位置づけは、この相関の中で今後の高齡者増加と重度化を想定した場合、介護、看護、住居、食事、見守りを統合した一体的生活支援施設として重要である
- ＊現在も老老介護、認認介護の実態が深刻化し、特養待機者が40万人に上っている

「安心」と「希望」の介護保険制度構築を

- ＊理想と夢を追いかける制度で高齢者の生活と命は守られない
- ＊制度の理念がシステム化され過ぎれば、高齢者の生活と命のあり方が固定化されることになる
- ＊一地点、一時期の生活モデルや支え合いシステムは変化する社会構造に対応する可塑性が必要である

今後の急激な少子・高齢化の進行

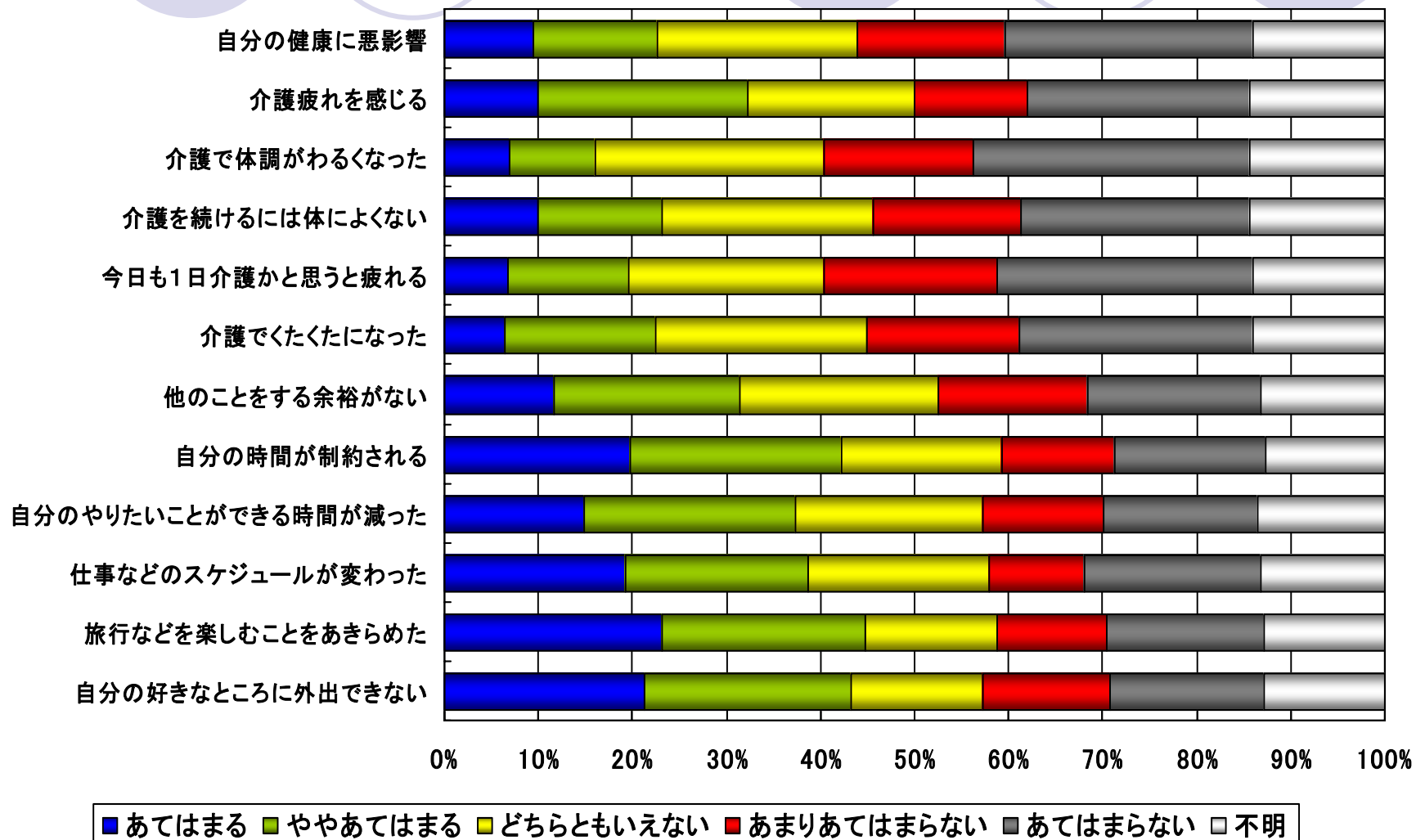
～日本の将来推計人口（平成18年12月推計）～

（万人）

	2005年	2030年	2055年
15歳未満	1,758	1,115	752
15～64歳	8,442	6,740	4,595
65歳以上	2,576	3,667	3,646
高齢化率	(20.2%)	(31.8%)	(40.5%)
出生数	109	69.5	45.7

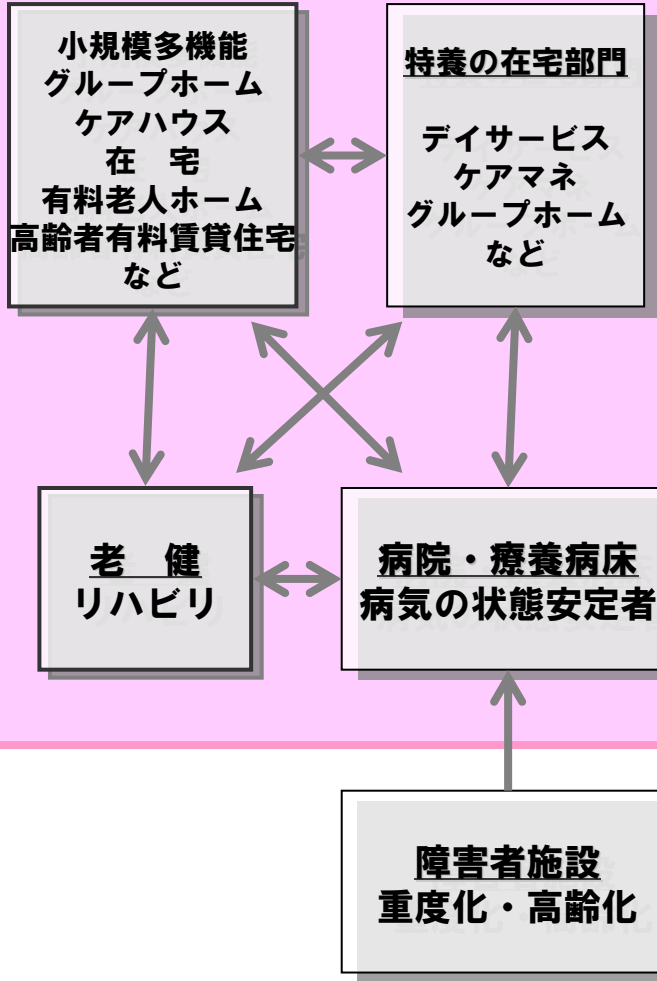
前記資料より

介護者のストレス

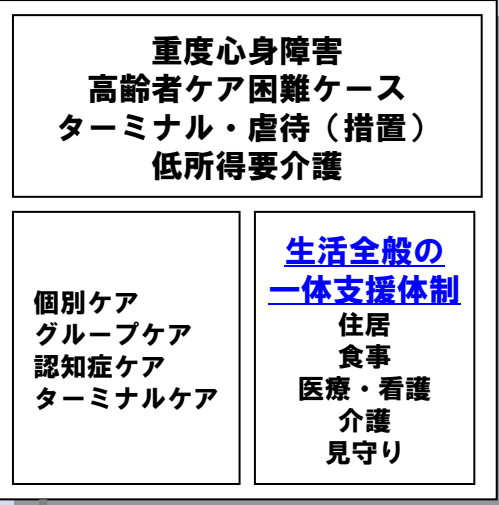
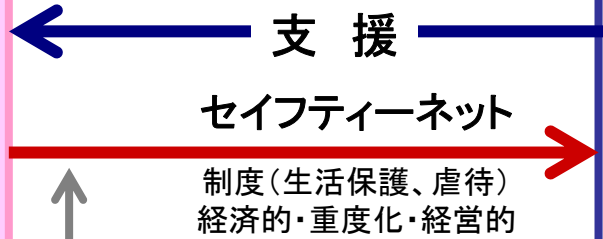


21世紀型 特養図

在宅サービス推進



特養



平成19年度：実態
要介護度 3.83
重度認知症
軽管栄養・胃ろう12%
吸引 10.2%

2015年
人口動態 3300万人
世帯構造 1900万人
(540万人)
収入動向

特養類型	A	○ : 1	人員配置
	B	○ : 1	
	C	○ : 1	

加算	Dr.	○倍
	OT/PT	○倍
	ST	○倍

税制による負担分類
(本人・家族へ)

特養の医療機能に関する調査研究

● 要介護度別にみた処置等の実施状況

		合計	喀痰吸引	経鼻経管栄養	胃ろう	じょくそう処置	創傷処置	点滴	酸素療法	処置なし
全体	人数	845	391	135	310	186	170	113	61	157
	率		46%	16%	37%	22%	20%	13%	7%	19%
要介護3以下	人数	51	12	2	2	4	18	16	8	21
	率		24%	4%	4%	8%	35%	31%	16%	41%
要介護4	人数	128	37	9	21	26	27	23	9	40
	率		29%	7%	16%	20%	21%	18%	7%	31%
要介護5	人数	666	339	123	286	155	125	72	44	95
	率		51%	18%	43%	23%	19%	11%	7%	14%

高齢者介護に対する世論調査

《施設入所を希望すると答えた方（1511人）》

なぜ施設入所を希望するのか

- | | |
|-------------------------|-------|
| ○ 家族に迷惑をかけたくない | 77.1% |
| ○ 専門的な介護を受けられるから | 35.9% |
| ○ 家族が仕事などで介護の時間が十分にとれない | 25.9% |
| ○ 緊急時の面で安心 | 24.4% |

介護施設を重視する点（複数回答可）

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ○ 料金が安いこと | 54.6% |
| ○ 設備が整っていること | 53.8% |
| ○ 具合が悪くなったときにすぐに治療や
看護を受けられる | 49.1% |
| ○ 職員からきめ細かな介護をしてもらえること | 44.9% |
| ○ 雰囲気明るいこと | 41.1% |

内閣府大臣官房政府広報
「高齢者会議に対する世論調査」より

高齢者介護に対する世論調査

介護を受けたい場所

- 可能な限り自宅で介護を受けたい 44.7%
- 特養等の施設 33.3%
- 介護付有料老人ホームや認知症グループホーム 9.0%

男性は、比較的自宅での介護を希望し、女性は施設入所を希望する方が多い
自宅介護を希望する方が最も高いのは 男性50歳～70歳
施設を希望する方が最も高いのは、 女性30歳～60歳

《可能な限り自宅で介護を受けたいと答えた方（1593人）》

なぜ自宅で介護を受けたいのか

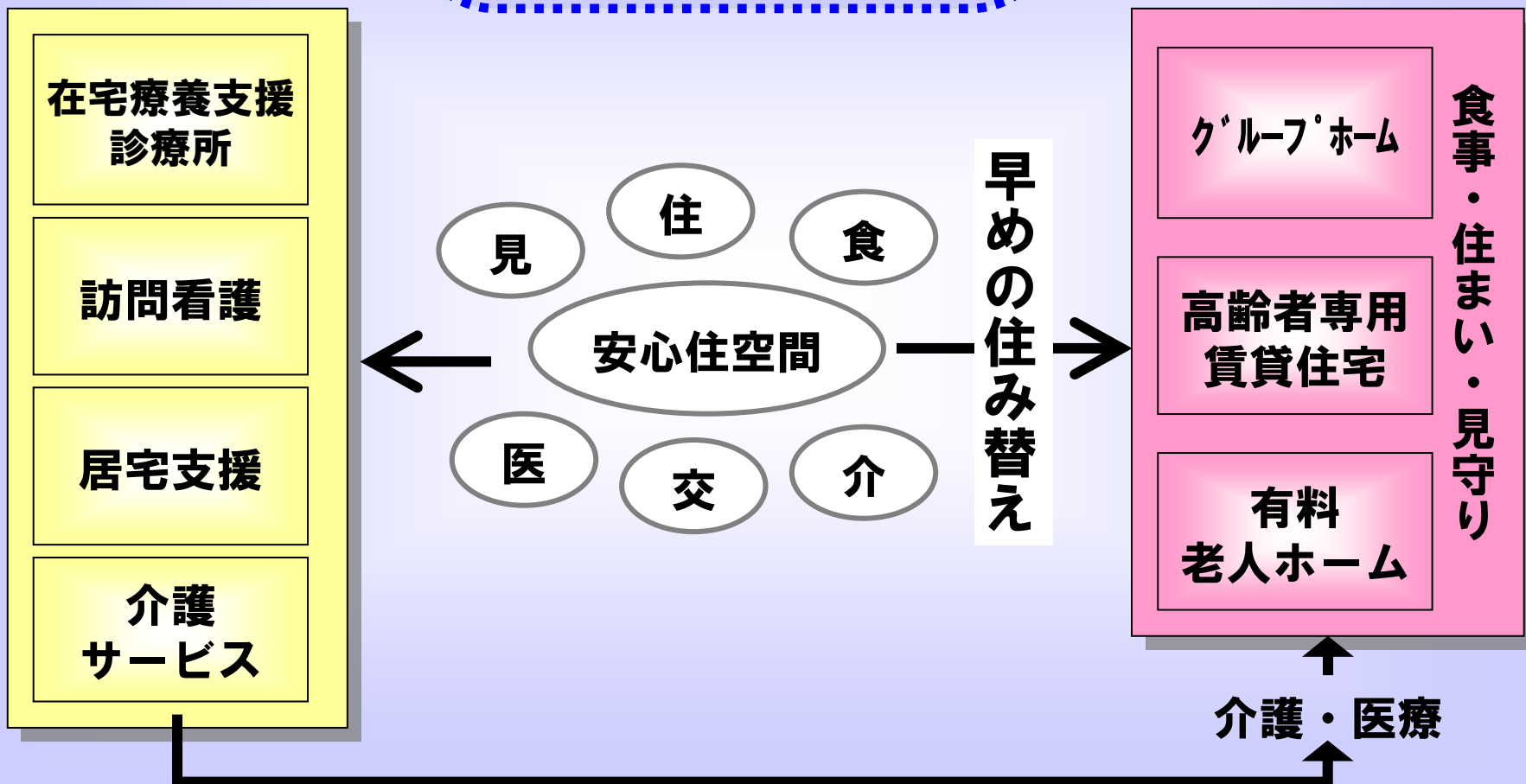
- 住み慣れた自宅で割合 85.6%
- 施設で他人の世話になるのが嫌 21.8%
- 施設に入るだけの金銭的余裕がない 21.6%
- 施設では自由な生活が出来ないから 21.3%

内閣府大臣官房政府広報
「高齢者会議に対する世論調査」より

介護機能の分解と「生活」の分断図

《 特 養 》

安心・安全住環境
(生活支援一体型支援施設)



見守りとは

- * 入所者の身体上、精神上、疾病上個人の特性を日常の状況から把握し
- * その人の活動時予測される状態変化に対して
- * 目視やコミュニケーション等、間接的に関る事により
- * 自立性を損なうことなくその人の主体性や意欲を尊重して支え
- * その人の生活の充実感・満足感を最大限引き出す
- * 特養の高度なケア手法が見守りである